

◆15V0053 田中沙帆

「性別」領域：「電池」領域

男：プラス極

女：マイナス極

私は男女という性別とアナロジーの関係になっているものはないか考えました。有性生殖を行う生物には「雄」と「雌」、「男性」と「女性」という二つの性があることに注目し、他に二つの対となっているものを探しました。世の中には性を気にしない存在の人もいますが、生物学的には性は二つしかありません。雄と雌、男性と女性が存在してこそ新しい生命は誕生します。それと同じで電池はプラス極とマイナス極があって、その二つが合わさることで電流が生まれ、さまざまなことに使われるものになるのです。どちらか一方だけがいても何も生み出すことはできない。二つの力が合わさってこそその存在だということが対応しあっていると思いました。

◆15V0055 田中日菜乃

「北極の景色」：「ソーダフロート」

海：ソーダ

氷の地面：アイス

しろくま：サクランボ

宿題とレポート

平出隆先生特別講義
「本と世界のアナロジーをめぐって」
別冊

神戸芸術工科大学「組版・タイポグラフィ論」(2017年7月8日)

◆15V0043 諏訪あかり

雲：わたがし

枯山水 岩：山 砂：川

◆15V0051 田中杏奈

[バームクーヘン] 領域：「木」領域

表面の焼き色：樹皮

層：年輪

[目玉焼き] 領域：「目」領域

卵の黄身：黒目

卵の白身：白目

[親子丼] 領域：「親子関係」領域

鶏肉：親

卵：子供

授業を終えて 文字とことばの力はどこからくるのか

前田年昭

平出先生の特別講義「本と世界のアナロジー」が終わったあと、私は、参加者のひとり、卒業生の浅田深里さんからメールをもらいました。

本と世界のアナロジー、という文字面だけで行くことを決めて夜行バスで来てしまいましたが、来て良かったです。お話も面白かったし、何より学生の頃のようにのめり込んで物事を考えることができました。まだ卒業して3ヶ月程ですが…。

本と世界のアナロジー関係を考えるのはとても楽しかったです。

本における知識と知識を得ることは、世界における食べ物と食べ物を食べることに等しい、と新たに思いました。

思想を偏らせる知識を得ることもあるし、偏った栄養で身体を壊したりすることもあることからそう思いました。

また、読まずに積んだままの本と、世界とのアナロジー関係を、講義が終わってからずっと考えていますが、わからないままです。でもこの空白が、考える力を産むんだな…とまた納得しています。

卒業後も文字と組版、本とデザインについて、これほど真剣に考えている卒業生がいることを知って、私はとてもうれしく思いました。

文字と組版は、ブックデザインの土台であり、背骨です。人びとは、一枚一枚では破れやすく、

組版・タイポグラフィ論の授業では、平出隆先生の「本と世界のアナロジーについて」という特別講義（7月8日）を前に、宿題を出しました（出題：6月17日、〆切：7月8日）。

宿題

【アナロジーとは、大いに異なる二つの領域において、それぞれに属する複数の要素が、類似によって対応しあっているという関係です。

「月の夜空」領域：「月見うどん」領域

月：卵の黄身

雲：卵の白身

星：七味唐辛子

このような関係を新しく見つけて、上記のように構成しなさい。

二つの異なる領域を並置し、それぞれに属する二つ以上の要素を対応させ、新たなアナロジーの関係を作ってください。】

次ページ以降が提出されたレポートです（学籍番号順）。

◆15V0001 青田真由

「プリン」領域：「しばらく染めてない金髪」
領域

プリン（カスタード）：染めた金髪部分
カラメルソース：生えた黒髪部分

「目玉焼き」領域：「目」領域

卵の黄身：黒目部分
卵の白身：白目部分

「地獄の熱湯釜」領域：「チゲ鍋」領域

釜：鍋
赤い熱湯：ぐつぐつ煮えるスープ
拷問される人間：具材

◆15V0011 泉紗理奈

「海」領域：「カレー」領域

海：カレー
砂：白米
魚：具

「眠る人」領域：「すし」領域

人：米
毛布：ネタ

◆（学外）梅原正英

「鉄道の環状線」領域：「回転ずし」領域

駅：客席
線路：レール
乗客：シャリ
ファッション：ネタ

◆（学外）藤林朋実

「カメラ」領域：「人間」領域

レンズ：瞳
シャッター：瞬き
メモリカード：ハート

「国法」：「会社」

憲法：会長
法律：社長
政令：常務
省令：部長
通達：課長

「墓」：「住まい」

墓石：表札
死：生
仏教：無宗教

◆15I5009 浦田恵里

「雪見大福」

雪：上にかかっている粉、冷たさ

かまくら：アイスの形

雪だるま：パッケージの形状

◆実習助手 新居達成

「ヨーグルト」領域：「夫婦」

固体状態：仲良し状態

汁が分離：心がはなれている

腐る：死ぬ

◆15V0014 上田純誉

I 「流しそうめん」領域：「ウォータースライダー」

プールの水：流水

そうめん：ボートにのった人

竹：コース

II 「帯回し」領域：「コマ回し」領域

悪代官：コマ回す人

帯：ひも

女性：コマ

III 「車」：「人の顔」

ライト：目

ナンバープレート：口

バックミラー：耳

◆15V0029 栗山百華

「南の島」領域：「メロンソーダ」領域

太陽：サクランボ

海：メロンソーダ

島：アイスクリーム

「火山」領域：「カレー」領域

溶岩：カレーのルー

岩石：じゃがいも、にんじん

炎：福じん漬け

◆15V0034 小林雛子

「がま口サイフ」領域：「ぎょうざ」領域

サイフ：ぎょうざの皮

500円玉：おにく

100円玉：にんにく

「おにぎり」領域：「人間」領域

のり：ふく

お米：体の肉

梅干し：心臓

◆15V0041 末廣朱音

「体」領域：「交通」領域

心臓：運送センター

血管：高速道路

毛細血管：道路

血液：車・トラック

栄養や酸素など：荷物

◆15V0101 上村里歩

「花火大会」領域：「えびフライ定食」領域

花火：えびフライ

観客：サラダ

夜店：お味噌汁

「かき氷」領域：「富士山」領域

かき氷：山

シロップ：雪

白玉団子：登山者

食べる人：観光客

◆15V0105 花木奈津子

「日本国旗」領域：「幕の内弁当」領域

日の丸：うめぼし

白地：ごはん

「温泉に入るおじちゃん」領域：「きつねうどん」領域

白髪：うどんの麺

頭の上のタオル：きつねあげ

温泉の湯：つゆ

◆15V0056 出口紅葉

「飛行機」領域：「鳥」領域
エンジンのついた羽：羽
車輪：足
飛行機の先頭：頭（くちばし）

「ホッチキス」領域：「ワニ」領域

針：歯
ホッチキスのうしろ：しっぽ

◆15V0078 星野遙香

「富士山（雪あり）」と「プッチンしたプリン」
雪の部分：カラメルソース
雪から下：プリンの黄色いところ

「飛行機」と「鳥」

「タイムセール中のスーパー」と「砂糖を見つけたアリ」
セール品をとり合う人々：砂糖にたかるアリたち

本と世界のアナロジーをめぐって (b)

2017年7月22日発行

編者 前田年昭

組版 前田年昭

◆15V0094 山口明日香

「カツカレー」領域：「睡眠」

カツ：私

白米：まくら

カレーのルー：ふとん

福神漬：目覚し時計

◆15V0099 入江日和子

「枯山水」領域：「自然風景」領域

白砂の模様：水の流れ

岩：山

砂紋と岩：龍

火にも水にも弱く、はかない紙を、束ねて綴じて本とすることによって、世界を知り、世界を変え、自分自身を変えてきました。米や味噌を借りることはできますが、文字とことばは借りることができません。ひとりひとりが自分で学んで身につける以外にないものです。

活版や写植（手動写植）の時代、組版のしごとは、文字をひとつひとつ拾う/打つところから始めていました。文字は、自分の身体をつかって、身体をとおして、刻みこんでいたのです。写植がコンピュータと出会って電算写植となり、ついでDTPの時代になってからの組版は、たいていの場合、文字入力から切り離されています。テキストは「流し込む」ことが多くなりました。しかし、他人から借りてくることのできない文字とことばは、けっして流し込んで事足りるというものではありません。DTPの時代の組版が、技術的な自由度を得た半面、ことばの力が弱くなったといわれるのは、身体をつかって文字入力しなくなったことに原因があるのかもしれない。

ブックデザインの土台としての文字と組版には、いつでもどこでも通用する千篇一律の答えなどありません。またネットで検索して得られることがらは世界のほんの一部にすぎません。検索してもひっかからず、ネットでは見つからない世界は、知れば知るほど深くて広いです。知れば知るほど「分からないこと」は増えていきます。

文字と組版の力をつけようと思えば、実際の仕事を通じて、なぜ？ という問いを大切に、自分自身で考え続けることです。ただコンピュータの設定を変えれば何とかなるという考え方は、コンピュータをつかっているようにみえて、実際はコンピュータにつかわれてしまっています。道具が人をつかうのではなく、人間が道具をつかうのです。

私の組版講義（組版デザイン論、組版・タイポグラフィ論）は、文字と組版を考える際のひとつの土台として役立つものと確信しています。

生きるための武器となる文字と組版を！

（2017年7月22日）